

人口減少問題を克服した姿について

○ 新プラン策定の参考とするため、総合政策審議会委員・専門委員の方々からいただいた意見は次のとおり。

人口減少を克服した姿

【人口】

- ・人口は減少しても、生産年齢人口及び年少人口が増加し、合計特殊出生率が増加することが、人口減少問題の克服した姿ではないか。
- ・人口全体ではなく、若者が減っていることが問題である。年少世代が多い人口構成を目指していくべきである。

【産業】

- ・限られた労働力の中で産業間で担い手を取り合うことだけは避けなければならない。どの分野においてもデジタル化を推進し、担い手不足を解消していくことが、「人口減少問題の克服」の一つの姿ではないか。
- ・秋田ならではのキャリア教育により起業家精神を持った有能な人材が育ち、スタートアップ企業が増えるような体制が構築できれば、それは少ない人口であっても一つの理想ではないか。
- ・人口が減ると県内だけでは回らなくなるので、外から稼いでこれる若手社員を中心とした会社や、グローバルニッチで活躍しているような企業がたくさんあるような社会を目指すべき。
- ・観光も農業も稼ぐ力を付け、人数ではなくて、質・所得を高めていくことが重要である。

【地域社会】

- ・「一人ひとりが夢が持ち応援してもらえる」、「他者からの評価によらず人の役に立てている実感が持てる」社会が理想。
- ・地域に居場所があり、住民が個々の能力を発揮しながら、適切な役割分担のもと地域を運営していけることが理想。顔の見える関係が保たれ、「向こう三軒両隣」が復活するような県であってほしい。
- ・豊かな自然環境が教育に生かされ、地域の多様な人材が教育現場に参画し、「日本一子どもが育つ県」になること。
- ・時間的にも金銭的にも都会へアクセスしやすく、生活に不便を感じないコンパクトな町で暮らせること。

克服に向けた視点

【教育】

- ・県外に出ることは悪いことではなく、良い面も多い。幼少期から秋田の魅力等を子どもたちに伝え、一度外に出たとしても「秋田に戻ってこよう」という意識を持ってもらえるようにすることが重要である。
- ・幼少期にしっかりと秋田で暮らすイメージを持ってもらうことが重要で、それは家庭や地域の責務である。
- ・県民一人ひとり、特に若者一人ひとりの生活を豊かにすることが本県の持続的な繁栄につながるので、そのために必要な教育政策、産業政策を推進していくことが必要である。
- ・ICT技術とグローバルな能力を備えた若者を育て、そうした人に活躍の場を与えることで労働生産性の向上につながり、企業の稼ぐ力が高まる。
- ・高齢者も減少していく段階が来るので、そこも見据えながら次世代に引き継げるものをたくさん作っていくことが重要である。

【健康・医療・福祉】

- ・「人口が減っても活力のある社会」をイメージするが、国際的に幸福度が高い国を見ると、健康・医療・福祉分野の満足度が高く、これらの充実が幸福感を生むのではないか。
- ・少子高齢化の先進県であることからすると、子育て環境の充実だけではなく、老年期を安全に過ごせる場所であることも大切である。

【克服に向けた気運の醸成】

- ・30代、40代の人たちが「秋田はつまらない、何もない」ということを合い言葉のように使っている。そういった発言が出ないような雰囲気づくりも必要ではないか。
- ・人口そのものを目標とするよりも、「子育てしやすい」とか「質的に豊かである」といった生活に身近なイメージしやすい目標を設定することで、若者にも共感が得られやすいのではないか。